

## <離縁調停を申し立てる方へ>

### 1 概要

養親と養子との養親子関係について解消したい場合には、養親と養子の話し合いがまとまれば、市区町村長に養子離縁届を提出することにより、養親子関係を解消することができます。養親と養子間の話し合いがまとまらない場合又は話し合いができない場合には、家庭裁判所の調停手続を利用することができます。

調停手続では、調停委員会が、申立人（あなた）及び相手方から、事情をお聴きしたり、必要に応じて資料を提出していただくなどして事情をよく把握して、解決案を提示したり、解決のために必要な助言をする形で話し合いが進められます。

### 2 申立てに必要な費用

- 収入印紙・・・1200 円分
- 連絡用の郵便切手・・・180円×相手方の数、110円×5枚、10円×5枚

### 3 申立てに必要な書類

- 申立書 3 通
  - 申立書は、法律の定めにより相手方に送付しますので、裁判所用、相手方用、申立人用の控えの 3 通を作成してください。
  - 養子が 15 歳未満のときには離縁後の法定代理人（実親など）が養子を代理することになります。
- 送達場所等（変更）届出書 1 通
- 進行に関する照会回答書 1 通
- 養親、養子の戸籍謄本（全部事項証明書）各 1 通
- 養子が未成年者の場合、離縁後に親権者となる者の戸籍謄本（全部事項証明書）1 通
  - 戸籍謄本等は 3 か月以内に発行されたものを提出してください。
  - なお、申立前に入手が不可能な戸籍謄本については、申立後に追加提出することでも差し支えありません。

### 4 調停手続に必要な書類等の提出方法等

- ・ 調停では、必要に応じて、自分の主張を裏付ける資料等を提出していただくことがあります。調停委員会の指示に従って提出してください。
  - ※マイナンバーが記載されていないことを必ず確認してください。マイナンバーが記載されている場合は記載のないものを改めて取り寄せて提出するか、数字部分を隠して写しを作成し、写しを提出してください。**
- ・ 書類等を提出する場合には、裁判所用及び相手方用としてコピー 2 通を提出するとともに、調停期日には申立人用の控えを持参するようお願いします。
- ・ 書類等の中に相手方に知られたくない情報がある場合で、家庭裁判所が見る必要がないと思われる部分（住所秘匿の場合の源泉徴収票上の住所等）は、マスキング（黒塗り）をしてください。（裁判所用及び相手方用のコピー 2 通全て同様に作成してください。）

- ・ マスキングができない書面については、「非開示の希望に関する申出書」に必要事項を記載し、その申出書の下に当該書面を付けて一体として提出してください。この申出書を参考に、裁判官が、相手方の閲覧・謄写（コピー）申請を認めるかどうか判断します。

## 5 提出された書類等の閲覧・謄写（コピー）

申立人の提出した申立書については、法律の定めにより相手方に送付されます。それ以外に調停手続中に一方の当事者が提出した書類等については、他方の当事者は、閲覧・謄写の申請をすることができます。この申請に対しては、裁判官が、円滑な話し合いを妨げないか等の事情を考慮して、許可するかどうか判断します。

## 6 申立先

相手方の住所地を管轄する家庭裁判所となります（ただし、相手方との間で、担当する家庭裁判所について合意ができており、申立書と共に管轄合意書を提出していただいたときには、その家庭裁判所でも対応することができます。）。

## 7 調停の進め方について

調停の流れは下図のとおりです。調停は平日に行われ、1回の時間はおおむね2時間程度です。それぞれ別々の待合室でお待ちいただいた上で、同時又は交互に調停室に入ることができます。調停委員会が中立の立場で、双方のお話をお聞きしながら話し合いを進めていきます。

また、調停期日の開始時と終了時に、双方当事者ご本人に同時に調停室に入ってください、調停の手続、進行予定や次回までの課題等に関する説明を行うこともありますので、同席に支障がある場合には、「進行に関する照会回答書」にその具体的な事実を記載してください。

